

ハートシスター

第 112 号

2021 年 9 月 30 日

発行:社会福祉法人 絆の会

発行責任者:太田廣美

事務局所在地:

長野市若里 3-14-23

TEL 026-226-6045

FAX 026-262-1262

houjin@kizuna-nagano.or.jp

http://www.kizuna-nagano.or.jp/



- 2Pからの内容 ・「他の者との平等」
(その1) 長野県ピアサポートネットワーク
代表 大堀尚美
- ・絆フェスタ開催決定 映画「星に語り
て~StarrySky~」を上映
- ・当事者会 ひまわりの会 頑張りすぎ
ず、ゆるっと繋がる
- 3P・グループホーム職員の勉強会がはじま
りました
- ・新型コロナウイルスの影響を受けなが
らも頑張っています!! -悠友ハウス・そ
ば工房さずなの取り組み-
- 4P・災害は忘れた頃にやってくる⑥
- ・あんだんてのおすすめソースカツ丼弁当
- ・メンバーの活躍あれこれ
- ・インフォメーション

『今後の台風に備えて~2019 年台風 19 号による災害の経験から学ぶ~』

8月20日(金)に絆の会職員全体研修会をオンラインで行いました。「数十年に一度の大雨」等のニュースを頻繁に耳にするようになりました。これから台風が多く発生する時期を迎えます。そこで2019年台風19号災害で大きな被害を受けた長野県社会福祉事業団より小島健一氏と竹内伸一郎氏を講師に迎え、災害時における障害者支援をテーマに講演を聴きました。

<被害の概要>

まず小島さんから台風19号による法人内(水内荘グループ)の事業所の被害状況について話がありました。「10月13日に千曲川が増水し堤防が決壊。泥水が一気に豊野町内に流れ込み、町内2カ所の就労の事業所ではそれぞれ1階の天井(3.25m)まで、2階の床上(2.9m)まで、グループホームでは床上1カ所、床下2カ所、そして法人の公用車計9台が浸水し甚大な被害を受けた。また町そのものが泥水に覆われ、見る見るうちに水位が上がり、まるで「パニック映画のワンシーンのようだった」と話され、想像を超える水の怖さがつたわって来ました。



就労事業所「小春日和」周辺の当時の状況



就労事業所「八雲日和」の当時の建物内の状況

<水害の教訓と備え>

竹内さんは今回の水害の教訓、事前の備えについて、①台風被害を甘く見てはいけない②避難指示に対して避難を決してためらわない③食料、飲料水を含めた非常時の生活用品等の常備の3点を挙げ、特に避難指示が出た際の避難に関しては「空振りでもよい。避難して“何もなかったね”と喜べる意識に変えていく必要がある」と話されました。また備蓄に関しては避難しても食料の手配ができるまでは約2日かかるため、最低でも2日分の備蓄は必要で水がつかない場所に置いておくことが大事等、何をすべきか具体的に学ぶことができました。

<現在の取り組みと今後に向けて>

台風19号で被災した経験を活かし、小島さんと竹内さんがおられる長野県社会福祉事業団の水内荘グループでは、すでに3日分の非常食と非常灯の確保、避難判断の迅速化などに取り組んでおり、さらには地域の防災計画を確認し、地域の一時避難所として開放する協定も締結しているという話がありました。最後に小島さんは、「特に今はコロナの影響もあり生きづらさを抱える人が増えており、こうした平時の社会問題は災害時に露呈する。人は元々『助けたい』という思いをもっている。互いの違いを認め合い、弱いままでも生きることができ、助けてほしいと言える社会を創っていく必要がある。ふくしというのは、『助けてほしい思い』と『何か役に立ちたい思い』をつなぐもの。つながりを育むことにより災害や危機に強い地域になっていく」と話されました。今回の講義で、災害は普段の何気ない日常を一瞬で変えてしまうこと、被災されたからこそ分かったこと等、体験に基づく貴重な話を聞くことができました。私たちも地域の防災計画にしっかりと目を通し、地域に根ざした法人としての取り組みを再確認しなければならぬと感じました。

(皆神ハウス 西川洋介)